

教職科目

科目名	教職入門		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程・1年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>現代は、情報化・国際化・価値観の多様化に加えて、少子高齢化の時代を迎えている。そして、様々な教育課題が噴出し解決への対応が学校教育に求められ、国を挙げて教育改革に取り組んでいる。</p> <p>こうした中で、教員の資質向上に向けた研鑽と教職の職責の重大さを学び、職責の遂行に必要な事柄を研究し、自らの力量の向上を目指す。</p>				
授業の準備について	教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、教科書を購入したのちは、一読しておくこと。				
授業内容					
1	わが国の教育改革と学校改革の現況				
2	今学校で何が起きているのか				
3	教職の意義				
4	教員の資質能力				
5	教員の本質				
6	教員の職務内容(1)学校の種類・体系、教職員の職種・配置、教員の職務、校務分掌				
7	教員の職務内容(2)体罰禁止(児童生徒の懲戒、体罰禁)、保健と安全、事項防止				
8	教員の実践活動				
9	教員の身分と服務(1)教員の身分、資格、任用				
10	教員の身分と服務(2)服務の基準、服務上の義務(服務宣誓、職務専念、身分上)、分限・懲戒等				
11	教育法規(1)憲法、教育基本法、学校教育法、学校保健法				
12	教育法規(2)教育職員免許法、教育公務員特例法、地方公務員法、国家公務員法、地方行政組織及び運営に関する法律				
13	教員の研修と勤務条件など				
14	進路選択に資する各種機会や関連情報				
15	介護体験について				
教科書	森秀夫『教職の意義と職務』学芸図書				
評価方法	テスト・レポート・授業への参加姿勢などによる総合評価				
特記事項	特になし				

科目名	学校経営の研究		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程・1年	必・選	必	期間・単位数	後期・1
授業の目標	<p>学校教育の目標を達成するためには、学校教育全般にわたって適正かつ意欲的な経営が求められる。このため、すべての教職員がその学校の教育目標と学校目標を自覚し、一体となって取り組むことが求められる。魅力と特色ある学校づくりを目指して、学校経営の課題を多角的に捉えて、改善への工夫などを研究する。</p>				
授業の準備について	<p>教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、教科書を購入したのちは、一読をしておくこと。</p>				
授業内容					
1	近代国家と学校(公教育の発達、学校体系と学制改革、日本の教育体制)				
2	基本的人権と教育(諸国憲法・条約の教育規定、日本国憲法と教育、教育諸法規)				
3	学校の体制(学校の設置・組織、義務教育制度、教育の中立性)				
4	教育活動(児童生徒の管理と指導、教育課程の編成と実施、教科書制度)				
5	教員制度(教員の本質、教員の職務、教員の身分と服務、教員の研修及び勤務条件)				
6	学校経営(学校経営の意義、学校経営の計画)				
7	学校経営(学校経営と学年・学級経営)				
8	教育行財政(意義、組織、教育委員会制度、教育財政)				
9	社会教育(社会教育制度、社会教育施設・事業、社会教育と生涯教育)				
10	教育改革と学校改革(背景様々な教育改革プラン)				
11	教職員の意識改革とモラルアップ				
12	人事考課制度				
13	学校間連携(幼稚園・小学校・中学校・高校・大学との水平的・垂直的連携)				
14	学校と家庭の連携				
15	学校と地域社会の連携				
教科書	森秀夫『要説 教育制度(改訂版)』				
評価方法	テスト・レポート・授業への参加姿勢などによる総合評価				
特記事項	特になし				

科目名	教育原理		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程・1-2年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>教育の理念や、教育史を視野に入れながら、教育学の基礎的な知識を研究する。内容は、(1)学力とは何か、(2)どのように評価するのか、(3)学校や学級経営、(4)現在の教育改革(5)学校の機能や役割などである。</p>				
授業の準備について	<p>教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、自己の小学校から高校に至るまでに見聞し、また経験した生徒指導の案件を思い出し、整理しておくことが望ましい。</p>				
授業内容					
1	教育、教育学とは何か				
2	近代教育史－学校教育の変遷				
3	今日の教育課題				
4	学力とは何か－学力論争				
5	カリキュラム－開発、改善と方法				
6	授業について－計画、実施、評価				
7	学習評価について－変遷とその内容				
8	生徒指導とは何か－意義、組織、計画、方法				
9	特色ある学校づくり				
10	学校・学級経営について				
11	学校運営のための組織と運営				
12	学校制度と教育行政－文部科学省と教育委員会				
13	教育関連法規の研究				
14	教師とは何か－過去、現在、未来				
15	まとめ				
教科書	学芸図書「教育原理」				
評価方法	テスト・レポート・授業への参加姿勢などによる総合評価				
特記事項	特になし				

科目名	教育心理学			担当者	中野 良吾 曾根 美恵	
コース・学年	教職課程 1 - 2 年	必・選	必		期間・単位数	集中講義 I 期・2
授業の目標	<p>教育心理学とは、教育に関する様々な問題を心理学的な視点からとらえ分析解明し、得られた知識や技術などを教育現場へ還元し応用していく学問であるといえる。</p> <p>近年、学校教育現場では、学力低下、いじめ、不登校、非行など様々な問題がある。学校教育の役割は、各教科の学習指導だけではなく、児童・生徒の身体的、心理的、社会的発達・成長といった人間形成に関するものも含まれている。学校教育の問題をとらえる視点として、大きく分けて①児童・生徒に関するもの、②教職員に関するものという2つがある。</p> <p>本講義では、発達、学習、教育評価を中心に、教育心理学の全領域について学び、児童・生徒の心身発達と教育との関係についての理解を深め、上記の2つの視点を通して教育に関して問題意識を持ってもらうことを目的とする。</p>					
授業の準備について	授業の事前準備は特に必要はないが、配布したプリントをよく読んで理解することが必要である。					
授業内容						
1	オリエンテーション、教育心理学とは？①（歴史）					
2	教育心理学とは？②（課題）					
3	発達①（発達の原理）					
4	発達②（発達過程と課題）					
5	学習①（学習理論、動機づけ）					
6	学習②（記憶、学力）					
7	性格①（性格類型、性格特性、性格の形成）					
8	性格②（適応とは？、葛藤、欲求不満）					
9	集団と人間関係（家庭における人間関係、地域における人間関係）					
10	学級集団①（集団の特性）					
11	学級集団②（学級における人間関係、教師の役割）					
12	生徒との関わり（生徒を理解するとは？、問題行動と指導、進路相談）					
13	障害児教育					
14	教育評価（教育評価の目的、信頼性・妥当性、教育評価の方法と種類）					
15	纏め					
教科書	特に指定しない。プリントを配布する。					
評価方法	提出物 10%、纏めの試験 90%					
特記事項	特になし					

科目名	道徳教育の研究		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程・1－2年	必・選	必	期間・単位数	前期・1
授業の目標	現在中学校で行われている道徳教育を、その歴史的変遷や意義、また指導項目ごとの課題や問題点、指導上の工夫等を事例を交えるなどして、多方面から研究する。				
授業の準備について	教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、自己の小学校から中学校に至るまでに受けた道徳の授業を思い出し、整理しておくこと。				
授業内容					
1	道徳とは何か―道徳の成立、本質、道徳と宗教				
2	現代社会の特質―現代社会の道徳的原理。科学技術の発達と道徳				
3	道徳と教育―道徳教育の意義。必要性。道徳教育の可能性				
4	江戸時代および明治時代初期の道徳教育のあり方―学制下の道徳教育				
5	教育勅語の発布と道徳教育				
6	修身教科書―検定教科書から国定教科書へ、国定修身教科書				
7	大正・昭和前期の道徳教育				
8	戦後の道徳教育―道徳教育の再興、道徳の時間の設置				
9	道徳教育の倫理的基礎				
10	道徳教育の目標と内容				
11	道徳教育の方法論				
12	道徳教育の場とその構造化―教科指導・教科指導における道徳教育―評価				
13	カウンセリングと道徳教育				
14	道徳教育と家庭および社会の役割				
15	情報化社会と道徳教育				
教科書	文部科学省「心のノート」				
評価方法	テスト・レポート・授業への参加姿勢などによる総合評価				
特記事項					

科目名	特別活動の研究 (含教育課程の意義及び編成の方法)		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程 1－2年	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>集団や社会の一員として正しく振る舞うことができない生徒が現在問題となっている。また、集団の中で自身をもって行動できない、セルフエスティームの低い生徒の存在も指摘されている。このような現状を踏まえ、集団生活を営み他者との良好な関係を結びながら、それを土台として自己を形成する基盤の特別活動のありかたについて研究する。さらに、教育課程について、その定義、類型（経験カリキュラムと教科カリキュラム）、特別活動の指導計画の編成原理を研究し、立案することも考えてみたい。</p>				
授業の準備について	<p>児童・生徒の問題行動等の報道に、日頃から注目するとともに、特別活動に関して自己の経験、見聞を整理しておくことが望ましい。</p>				
授業内容					
1	特別活動とは何か―教育課程における位置とその重要性				
2	特別活動の目標と内容				
3	特別活動の実際(1)―学級活動				
4	特別活動の実際(2)―生徒会活動				
5	特別活動の実際(3)―クラブ活動				
6	特別活動の実際(4)―学校行事①:儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事				
7	特別活動の実際(5)―学校行事②:旅行・集団宿泊の行事、勤労生産・奉仕の行事				
8	教育課程編成論(1)―教育課程とは何か				
9	教育課程編成論(2)―学習指導要領について				
10	教育課程編成論(3)―代表的な編成の原理				
11	教育課程編成論(4)―学校を基盤とした教育課程開発				
12	特別活動の指導と計画のための教育課程編成				
13	特別活動の今日的課題(1)―新学習指導要領と特別活動				
14	特別活動の今日的課題(2)―キャリア教育				
15	まとめ・反省				
教科書	なし				
評価方法	授業中の提出物、意見発表、出席等を総合的に評価する。				
特記事項					

科目名	英語科教育法		担当者	前田 隆子	
コース・学年	教職課程・2年	必・選	必	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>中学校の英語科の教師を目指す人を対象に、英語教育に関する知識・理論・技術を身につけることを目的とします。前半は、毎回一人に50分の英語の模擬授業を行ってもらい、その後学生同士の相互評価及び教員による評価を行います。</p>				
授業の準備について	<p>実習に向けての教材研究および作成をしっかりと行なってください。</p>				
授業内容					
1	Introduction				
2	模擬授業 (1)				
3	模擬授業 (2)				
4	模擬授業 (3)				
5	模擬授業 (4)				
6	模擬授業 (5)				
7	教育実習 (1)				
8	教育実習 (2)				
9	教育実習 (3)				
10	教育実習報告会 (1)				
11	教育実習報告会 (2)				
12	教員採用試験の過去問題を解く (1)				
13	教員採用試験の過去問題を解く (2)				
14	教員採用試験の過去問題を解く (3)				
15	まとめ				
教科書	<p>(1年次に使用した教科書を続けて使用) JACET 教育問題研究会 編 『新 英語科教育の基礎と実践』 三修社 2005年 文部科学省 『中学校学習指導要領 解説—外国語編—』 東京書籍</p>				
評価方法	<p>授業実践：70%、レポート：30%</p>				
特記事項	<p>特になし</p>				

科目名	教育方法の研究		担当者	前田 隆子	
コース・学年	教職課程・1年	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>将来教職に就いて、「よい授業」を行える教師となるためには、まず授業を見る目を養うことが大切です。そこでこの授業では、教育方法の研究の中心を「授業研究」におくことによって、いかに授業を見るべきなのか、そして実際どのように授業を創るべきかを考えます。そして、最後には中学生の英語の授業を想定し、Teaching Plan を作成できるようにします。</p>				
授業の準備について	<p>発表者は、十分な時間を取って、ハンドアウトの作成を行いましょう。発表しない人も、必ず予習し、内容を把握したうえで授業に臨んでください。</p>				
授業内容					
1	Introduction				
2	日本の英語教育の歴史				
3	学習指導要領				
4	英語教授法				
5	英語教員の役割と要件				
6	第一言語習得と第二言語習得				
7	学習者論				
8	コミュニケーション能力				
9	国際理解教育				
10	発音指導、文字指導				
11	リスニングの指導、スピーキングの指導				
12	リーディングの指導、ライティングの指導				
13	語彙指導、文法指導				
14	Teaching Plan の書き方				
15	まとめ				
教科書	JACET 教育問題研究会 編 『新 英語科教育の基礎と実践』 三修社 2005 年 文部科学省 『中学校学習指導要領 解説—外国語編—』 東京書籍				
評価方法	プレゼンテーション：60%、Teaching Plan：40%				
特記事項	教育実習に行くためには、TOEIC®IP で 400 点以上を取得する必要があります。				

科目名	生徒指導・進路指導の研究		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程・1年	必・選	必	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>教育活動には、学習指導と生徒指導があり、進路指導も広義には生徒指導の一環と考えられる。生徒指導は児童生徒の個性に応じた社会性の育成と進路選択能力を養うことを目的とし、広義には人格形成を高めるための教育活動である。具体的な事例や資料を通して生徒指導を研究し、2年次の教育実習への準備にもあてたい。</p>				
授業の準備について	<p>教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、自己の小学校から高校に至るまでに見聞したり経験した生徒指導や進路指導を思い出し、整理をしておくことが望ましい。</p>				
授業内容					
1	生徒指導の意義と目的				
2	生徒指導の内容				
3	生徒指導の組織体制				
4	具体的事例への取り組み				
5	危機場面での指導のあり方				
6	教育相談				
7	教育相談の具体的事例				
8	教育上配慮を要する児童生徒への指導のあり方				
9	進路指導の歴史的流れ				
10	進路指導のあり方				
11	キャリア教育への転換				
12	人格教育				
13	事例研究（1）				
14	事例研究（2）				
15	教師愛と人間性				
教科書	なし				
評価方法	テスト・レポート・授業への参加姿勢などによる総合評価				
特記事項	特になし				

科目名	教育相談		担当者	中野 良吾	
コース・学年	教職課程 1－2年	必・選	必	期間・単位数	集中Ⅱ期・2
授業の目標	<p>学校教育現場では、「いじめ」、「不登校」、「学級崩壊」など様々な問題がある。教師の役割は、学習指導のみならず、児童・生徒のこころの問題にも対処することが求められている。小中学校には、スクールカウンセラーが配置されているが、「こころの専門家」だけでは問題解決に至らないことも多い。教師にも「カウンセリング・マインド」など児童・生徒を理解するための技術が必要とされるようになり、「こころの教育」を目指した各種の研修が実施されています。学校教育現場では、教師（養護教諭も含む）がスクールカウンセラーや学内外の関係機関と連携・協働して問題に対処することが重要視されている。</p> <p>本講義では、思春期のこどものこころの問題について理解するとともに、学校現場でそれらに対処するための基礎知識を身につけてもらうことを目的とする。</p>				
授業の準備について	授業の事前準備は特に必要はないが、配布したプリントをよく読んで理解することが必要である。				
授業内容					
1	オリエンテーション、生徒対応の基礎①（話を「聴く」こと）				
2	生徒対応の基礎②（生徒が発するサインに気づくこと）				
3	生徒対応の基礎③（発達支援という視点）				
4	「カウンセリング・マインド」とは？				
5	教師と生徒との関係（「学級」という場における人間関係）				
6	生徒理解の基礎知識①（心身の発達とこころの健康）				
7	生徒理解の基礎知識②（適応・ストレス）				
8	学校を取り巻く様々な問題（社会、家族、子どもたちの問題）				
9	学校現場での支援方法①（教師、カウンセラー、保護者との連携）				
10	学校現場での支援方法②（プライバシーへの配慮、守秘義務）				
11	教育相談の実際①（いじめ、不登校）				
12	教育相談の実際②（進路に関連した相談）				
13	教育相談の実際③（保護者への対応）				
14	教師のこころの健康				
15	纏め				
教科書	特に指定しない。プリントを配布する。				
評価方法	提出物 10%、纏めの試験 90%				
特記事項	特になし				

科目名	教職実践演習（中）			担当者	阿部 侃壽・前田 隆子
コース・学年	教職課程・2年	必・選	必		期間・単位数 前期・2
授業の目標	<p>2年次前期までに習得した中学校英語科教員としての知識・技能を土台に、それまでの学修を振り返り、かつ教師としての資質能力形成につなげることを目標とする。</p> <p>1年次前期から2年次前期までに作成した履修カルテ（教職に関する科目の履修ポートフォリオおよび英語力伸長度リスト）をもとに、英語科教員としての資質能力で不足している部分を、グループ討論、学校現場の見学・調査、模擬授業等を通して補う。</p>				
授業の準備について	グループ討論等に備えて事前に意見をまとめること。				
授業内容					
1	Introduction：これまでの学修の振り返りについて講義・グループ討論				
2	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についてのグループ討論・ロールプレイング				
3	社会性や対人関係能力（組織の一員としての自覚）についての講義・グループ討論				
4	対人関係能力（保護者や地域の経験者との人間関係の構築等）についての講義・グループ討論				
5	生徒の理解や学級経営についての講義・グループ討論				
6	学校経営案の作成・グループ討論				
7	学校現場の見学・調査				
8	学校現場の見学・調査の結果報告				
9	英語の教科内容等の指導力についての講義・グループ討論				
10	模擬授業またはロールプレイング1回目				
11	模擬授業またはロールプレイング2回目				
12	模擬授業またはロールプレイング3回目				
13	教職経験者による模範授業				
14	英語の教科内容等の指導力についての講義・グループ討論				
15	資質能力の確認・まとめ				
教科書	<p>（1年次に使用した教科書を続けて使用）</p> <p>JACET教育問題研究会 編 『新 英語科教育の基礎と実践』 三修社 2005年 文部科学省 『中学校学習指導要領 解説—外国語編—』 東京書籍</p>				
評価方法	プレゼンテーション：70%、定期試験：30%				
特記事項	特になし				

科目名	教育実習／事前事後指導		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	教職課程・2年	必・選	必	期間・単位数	前期・4／1
授業の目標	<p>「教育実習」の目的は、学校現場における学校経営や教授活動を通して、学校教育の全般についての確な理解を深め、自己の適正の確認や資質向上を図ることにある。</p> <p>「事前事後指導」では、実習前に知っておきたい事柄について全般的な研究をすると共に、「研究授業」について、実践的な対策を検討する。</p> <p>「事後指導」では、養育実習全般の体験報告をもとに討論・反省を行い、教育実習が今後の進路に効果的に活かされるように指導にあたる。</p>				
授業の準備について	教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、希望者には過去の実習記録等を貸与するので、参考にして欲しい。				
授業内容					
1	教職の魅力、神奈川県教員採用状況、基本的事項、HR経営				
2	教育実習生の心構え、教育実習の実践上の注意点				
3	現在の教員養成と教育実習の位置づけ				
4	授業づくり(黒板の利用、板書計画、学習指導上の留意点)				
5	指導教諭からみた実習生の状況(報告書から)				
6	自己紹介、挨拶、お礼の言葉などの礼儀作法				
7	教育実習校での留意点				
8	教育実習				
9	教育実習				
10	教育実習				
11	教育実習を振り返って(事後指導)				
12	教育実習を振り返って(事後指導)				
13	教育実習を振り返って(個別発表)				
14	教育実習の全体反省会				
15	1年生への激励会(1・2年合同)				
教科書	なし				
評価方法	実習に対する熱意、研究、努力、実習校での評価、発表などを総合的に判断し評価				
特記事項					